

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		保育所等食育啓発事業		担当課	児童福祉課・地域子育て支援センター
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成13年度～
	施策	健康づくりの推進		種別	任意の事務
	基本事業	食育の推進		市民協働	事業協力
予算科目コード		01-030201-09 単独	根拠法令・条例等	守谷市食育推進計画	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
「食」の大切さを伝えるため、保育所において平成13年度から食育推進を開始した。平成17年度に食育基本法が施行され、県では平成19年3月に茨城県食育推進計画を策定した。市においても平成24年度に「守谷市食育推進計画（計画期間：平成25度から4箇年）」を、平成28年度に「第二次食育推進計画（平成29年度から5箇年）」を策定	・親子クッキング及び食に関する講話 全5回 ・食への関心を高める教室及び食の相談（子育て支援センター保護者対象）全4回 ・栄養教室（保育所年長児対象）全8回 ・離乳食教室（保育所年長児対象）全3回
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市内未就学児及びその保護者に対して、料理教室や食に関する講話等、さまざまな経験機会を提供することで「食」に関する知識と「食」を選択する力、健全な食生活を実践する力を習得してもらい、児童の心身共に健全な育成につなげる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、食に関する正しい知識を身に付け、食事や栄養に気をつけることができるようにする。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
・親子クッキング，食育講座ともに参加者は多い傾向にある。特に親子クッキングは，毎回応募超過であり，父親の参加も多いことから未就学児と保護者に対する食育啓発ができています。 ・アンケートの結果からは，講座内容が役に立つとの回答が多く，さらには，多くの食育事業を希望していることがわかった。 ・担当人員不足のため，開催回数の増加が難しい。	今年度の内容 ＜親子クッキング＞ ・野菜をたくさん食べようホームページ・動画掲載 ・クリスマスクッキング(令和2年12月実施予定) ・野菜をたくさん食べよう(令和2年2月実施予定) ＜ひろばの食育講座＞ ・離乳食の進め方（令和2年10月実施） ・噛むことの大切さ（令和2年12月実施予定） ・楽しく食事をするために（令和3年2月実施予定）
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
・ボランティア等を活用し，親子クッキング，食育講座の開催数を増やす。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐増加 ☐維持 ☒削減	担当課変更のため，食育に伴う事業費の移行。栄養士報酬，栄養士費用弁償，及び市内食育・給食担当研修会材料費，竜ヶ崎保健所管内栄養士会負担金，県栄養士会負担金が保育所運営事業に移行となるため，食育啓発事業としては削減となる。

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
・食育講座に対し食への興味・関心度が高く、コロナ禍においても講座の開催ができるよう模索、新たな様式で提案していくこと。 ・インターネットの情報収集が多くなってきている現代だが、食べる意欲に繋がる講話、食事に関して大切なことの講座や対面による対話が必要と感じる家庭が増えてきている。	親子クッキング（全2回） ・クリスマスクッキング（令和2年12月） ・野菜の摂取を高めるクッキング（令和3年2月） 食育講座 ・食品栄養やその効能等食に関する講話（全3回） ホームページでの啓発 ・野菜の摂取を高めるレシピ掲載（全4回） ・野菜の摂取を高めるクッキング動画（全1回） 新型コロナウイルス感染防止対策としての消毒等の徹底、また食育動画配信等、安全に配慮した事業開催に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
教室に参加した人数（人）	306.00	280.00	326.00	315.00	268.00	88.00	90.00
アンケート調査で食に関心を持ち食生活を見直すという回答をした割合（％）	85.70	95.70	98.70	96.00	88.40	84.00	85.00
成果の動向（→その理由）							
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	新型コロナウイルス感染症により、講座の回数が減少したものの、アンケートの回答で役立つ・大変良いの回答が多く満足度は高い。また、応募者数も多く、抽選による参加となったものもあった。今後も参加者が理解しやすく実践可能な事業内容の検討に努め成果の向上を図る。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	引き続き、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえつつ、回数や参加者数の調整を行い、感染拡大防止に努め食育事業の要望に応えていく。食育講座についても、親子で楽しく健全な食生活を実施する知識・力を習得できるよう事業開催形式及び内容を検討し、児童の健全育成に努めていく。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	1,196	1,380	49	100	100
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	40	31	10	21	21
	一般財源	1,156	1,349	39	79	79
正職員人工数（時間数）		203.00	200.00	73.00	73.00	73.00
正職員人件費		848	821	296	282	0
トータルコスト		2,044	2,201	345	382	100